

# 新川通信

第1号

題字 佐藤 大作

会員の皆様お元気で新年を迎えられた事をおよろこび申し上げます。  
発足の一年間ご協力大変ありがとうございました。  
越後新川まちおこしの会で、眠っていた内野町を目ざませたと思います。本年も会員の増加、事業の進展を共に進めて行きたいと考えています。  
末筆ですが、会員皆様のご健勝をお祈りいたします。 会長 佐藤 大作

## 07年「越後新川まちおこしの会」一年間の主な歩み

- ・2.17(土)：設立総会、記念講演会「新川と国営事業について」参加者約60名、入会44名
  - ・4.7(土)：観桜会と懇親会に16名参加、咲き始めの水路橋下手左岸で
  - ・5.20(日)：「新川の記念碑めぐり(20箇所)」参加者20名、旧中野小屋村長・椎谷さん宅「新川暗闇」の銘板発見。広通江川源流確認、西蒲原土地改良区中央管理センター、鎧瀧記念碑等見学、20名参加
  - ・6.16(土)：「身近な水環境の全国一斉調査」新川の水質調査&清掃活動に16名参加、CODと水の透視度測定、水路橋、旧広通江、広通江周辺に限定して実施
  - ・7.1(日)：「蓮久寺 新川掘削記念法要」に13名参加、掘削ビデオ上映、会員55名になる
  - ・9.30(日)：「新川の源流と樋曾山隧道を探る」に22名参加、水質汚濁状況も観察、新潟県の大通川西槇水質測定局のCN等金属探知機測定地点などを確認
- 西区DEアートと連携 静田神社での茶会を、会員の西尾さんが10/13, 20, 21, 27の4日開催
- ・10.27(土)：「新川トークセッション」静田神社にて
  - ・10.28(日)：内野小学校4年生徒約150名に新川の汚れ確認のため水透視度測定の実習
  - ・11.3(土)：西蒲原土地改良区の大通川放水路ケラ島ゲート周辺のクリーン作戦に5名参加
  - ・12.1(土)：内野コミュニティー協議会主催の講演会「新川開削」に参加
  - ・12.17(月)：定例会&忘年会の実施
- この他、世話人会を14回開催。現在の会員 62名

- ◇ 西区市民公益活動補助金に申請、採択10万円  
助成で幟旗20本作成、水路橋と役員宅等掲示  
越後新川まちおこしの会チラシ3,000枚印刷

## ◇ 新川の立体交差点に説明版設置

新潟地域整備局から立体交差付近に説明板をつける話が出ました。予算額250万円確定とのことで、嬉しい悲鳴を上げ鋭意検討した結果、テーブルサイズ2箇所、斜めのものを要望。記載文や図等についても多様な内容を要望。最終的なものに集約中で、乞うご期待下さい。

## ◇ 設立の経緯

- (1) 内野地区自治連絡協議会への呼びかけ
- (2) NPO法人新潟水辺の会との連携
- (3) 内野の今昔を語る会との連携
- (4) 新川掘削記念館を地元で作る会の発足
- (5) 西地区公民館「内野地域学」との連携
- (6) 農林水産省・西蒲原土地改良区との連携
- (7) 越後新川まちおこしの会設立

## ◇ 目的

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育かれた産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめながらさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに寄与することを目的とする。

## 新川の想い出

西蒲区 遠藤（郷土史家） 星野 五郎  
謹んで新春をお慶び申し上げます。

去年は入会のお誘いをいただき、ありがとうございました。昨秋は、新川の源流、樋曾山隧道の河口、鎧潟排水機場等、思いがけない勉強をさせていただきました。

新川は、鎧潟の縁辺に暮らしてきた私共には関係の深い川で、早通川と云って大蛇の住む川と恐れられたものです。新川の歴史には、三潟悪水抜き、金蔵坂掘削、底樋敷設、河口改修など成されてきました。今日はポンプ場の大改革で川の存在を忘れそうになっております。

昔の新川には、7月から9月まで藻刈り日雇人夫がおり、そのほとんどが遠藤の人達で100名くらい居りました。毎日川に浸かりながらV字形になって川いっぱい藻刈りをして、川を守って来たそうです。そのため遠藤は、身体を壊して亡くなる人が多く、早死の村と云われたそうです。土地のある限り、川は無くなりません。その川に親しみ、愛し、保護し、観察し、奉仕下さる貴会の皆様方の熱心な取組みに感服しております。

益々の発展をお祈り申し上げます。

## 西蒲原の穀倉地は、私たちの先人が

中野小屋自治連会長 小出 正栄

多くの月日と、労力、私財、熱意を注ぎ込んで、悪水を日本海に放出する新川の開削について命を吹き込まれた。開削の許可を得るまでの年月、利害関係からくる反対運動、さらには、当時運送手段としていた西川との交差、幾多の困難を抱えながらの大事業、今、あらたまって思い巡らすとき、頭の下がる思いと、郷土にこのような先人達が居たことの誇りを感じます。



## 千古の流れ

漆山地区コミュニティー協議会  
会長 田邊 茂

霊峰弥彦山を西にいただき、秋来たりなば黄金の波立つ我が郷土。

開発の裏には聞くも涙を誘う田邊小兵衛俊重の偉業物語をこれより繰り広げん・・・と云う前語りで小学校の学芸会で、西川から4~5キロの間用水路を引き、地域住民の為に尽力された庄屋の物語を演じさせられた一人として思い出しましたが、今ではその恩恵に預かっている私達です。

澄んだ水が涛々と流れている西川、上流は分水まで行く西川水系として蒲原地方の命の川、水だと私は思っております。このままの流れを次の世代を考える頭の中には、小学校唱歌の「ふるさの」の詞歌の中の「こぶなつりしかの川」とありますが、こんな風景の中で育った者には何とも忘れがたい風情です。

私も時間のある時は、車で山里、海辺へと出かけますが、山里には細い川でも澄んだ水が流れ、広い川は白波を立てて水が流れて行きます。いつの時代でも水は碧く澄み、空は青く澄む、川を汚さない。山は荒らさない。こんな事を皆さんで守って、流れを永い世代まで送ってやりたいものだと思っております。

今、「新川の水を守る」と云う事で、つい昔の頃の思い浮かべ、意のまま書いて終筆とさせていただきます。



観桜会 2007. 4. 7

鎧潟排水機場にて 2007. 9. 30

## 「越後新川まちおこし」に思う

世話人 板垣 厚一

約 30 年前に、小千谷から内野に引越して、長男の小学校の「社会科」の教科書を見て、新川のユニークなことに気付いた。内容は、開削された川で、西川の下を流れていること、河口には東洋一の排水機場があることなどが記載されていたように思う。実際に目にした新川と西川の立体交差は、珍しい光景であった。

その後は、新川のことは忘れていた。定年退職後、平成 17 年度に西地区公民館でおこなわれた「地域学」に参加して、また、新川のことに興味をもった。新川の掘削工事に挑戦した先人達の知恵、熱意と努力には、頭が下がる。また、それを引き継いで、治水に携わってきた先輩や現在の関係者には、敬意を表したい。

「越後新川まちおこしの会」は、新川をテーマにして、「町おこし」に寄与することである。そのためには、新川の歴史を理解し、現在の問題（例えば、水質の浄化、水辺の有効活用など）とその対応、将来の問題（例えば、地球温暖化による海面の上昇、大地震による川底の地殻変動などを考慮した減災対策、経費の検討）など、取り組む課題が多い。一番の問題は、地元住民、新川流域住民を、いかにして新川をテーマにした「町おこし」に巻き込み、活動を継続させていくかであろう。

## 内野堀（新川）開削 9 ツの謎

世話人 笠巻 謹太郎

- ・伊藤五郎左衛門始め、割元庄屋の新川開削の功績が語り継がれなかったのはなぜか？
- ・長岡藩は工事費の 6 割分を、なぜ願人負担としたか？
- ・工事関係の専門家がいなくて、工事費が 2 倍以上かかったのはなぜか？
- ・金蔵坂を掘った土砂は、何処へ運んだか？
- ・新川を掘るための土地の補償問題。
- ・内野大橋について。
- ・鎧瀧でカレイが釣れた。
- ・十返舎一九の『滑稽旅加羅寿』『内野砂山掘割之図』の疑問点。
- ・細越村と崎山村と天保の大火  
この時代はまだ、内野村でなかった。



新川河口排水機場見学 2006. 11. 4

### 新川がつなぐ まちおこし熱

新潟 地元住民が会設立

新潟市西部を流れる新川の歴史を学び、地域おこしにつなげようと、地元住民らが十七日、「越後新川まちおこしの会」（佐藤大作会長）を設立した。川の歴史をPRするほか、環境保全活動にも力を入れ、六月には水質調査を実施する。

新川は低湿地の多かった西蒲原地域を水害から守るため、「一八一八―二〇年に掘られた排水路、三濁（大濁、田濁、鎧瀧）の水を日本海に抜く役割

始めた午後五時すぎ、一人の山伏がほら貝を吹きながら登場し、大護摩を祈っていた。炎は十層近

を担った。二六、二七年の拡張工事と合わせ、六万両を費やした。その後も改修を重ね、農業の発展に貢献してきた。

会を発起人で事務局長を務める丸山幸平さん（七〇）五十風中島川は「昭和二十年代までは河口でサケを捕り、夏には子どもが水泳を楽しむ地域の人々に親しまれた川でした」と語る。

ただ現在は雄鷹水が流

会場には昔の新川周辺の写真が展示され、参加者は河口で掘れたというサケや、内野の古い街並みに見入っていた。十七日、新潟市内野上新町の西コミュニティセンター

# 新川

越後新川まちおこしの会

# 博物館

# 西川

越後新川まちおこしの会

# 立体交差

笠巻さん製作の幟旗

## 君の兄弟姉妹と先代を探しています。 こころ当たりの方はご連絡下さい

加藤 功

私が君と逢ったのは、昨年(2023)の2月27日であった。西地区公民館での会合の後、何気なく話をしている君の事が話題となった時、樋木酒造社長の樋木 尚一郎氏から、「家に居るよ」との意外な一言があり、すぐに公民館近くの社長宅に向かった。

お店のガラス戸を開けて、中木戸から庭に出るの塀際にある松と竹林の木陰に君は鎮座していた。大正元年の生まれであるから君は、今年95歳になっていた。高さ130センチ、幅130センチ、幅30センチで体重1トンの君は、95年の年月の時間を超越して、「初めまして、新川暗閘の暗です」と挨拶した。

写真で君とは何度も、いや何十回と会っているのに、これほど大きな銘板で御影石の君とは知らなかった。よくもまあ元気で居たものよ、どうしてここに居るの?と聞いたが、答えはなかった。樋木社長の話では、昭和30年半ば頃から家に居たという。当日は行く所がありすぐに君と別れたが、君の兄弟姉妹がどうしているのかが気になり、その後いろいろな方にお聞きしたが誰もその行方を知らなかった。

その後、新川沿川の石碑めぐりの準備で、伊藤五郎左衛門終焉の碑を捜し中野小屋農協付近を捜している偶然、君の兄ふたりを発見した。

君の兄の「新」と「川」は、新潟市と合併する前の中野小屋村の椎谷村長宅の庭に仲良く肩を並べて、私を突然迎えてくれた。碑を探して一本道を間違えた偶然が、この発見に繋がった。

伊藤五郎左衛門終焉の碑は中野小屋連絡所前にあったのに、私はてっきり中野小屋農協近

くにあると勘違いして、歩き回りこの出会いとなった。まさに新川による「邂逅」である。

長男の「新」の肩は、95年の歴史で少し欠けて傷んではいたが、二人共元気であった。そして姉妹の「請負者 桜組」の銘板も一緒であった。

写真は遠くから撮られて、姉妹4名の名前を読み取ることが出来ないが、昭和31年まで生存していたことは確かである。今後は姉妹の名前を明らかにすると共に、君たちを探すことが私たちの宿題となっている。

更に、君たちの先代の「慶応3年の底樋(当時画期的であった逆流防止扉の付いた水中トンネル)」が、新川暗閘(大正2年完成)敷設工事の際に、新川の河川内にあった2門は撤去されたようだが、残りの底樋3門(高さ6尺(1.8m)幅3間(5.4m)、長さ36間(約72m))が、まだ新川の土手付近の地中に埋まっている可能性が高い。出てくれば、一級品の新潟県近世土木遺産の発見である。これについては今後、音波探査機、レーダー探査を用いて探す事を検討している。



新川河口排水機場にある『底樋』の模型

私たち越後新川まちおこしの会では、この兄弟を95年前の新川土手に永住させる事を計画している。これらについて誰か、ご存知か情報をお持ちの方が居ましたらご一報ください。



樋木酒造宅の庭にあった暗閘銘板『暗』



中野小屋で見つけた『新』、『川』、『桜組』



完成直後の新川暗閘 上流部の銘板

## 新川への思い

西尾 光弘

通勤で毎朝新川を渡りながら眺めております。新川は色々な表情を見せてくれます。時々ものすごくきれいな姿にハッとします。風が無い朝、空を映し周りの景色全てを静かに水面に見せてくれます。また、雨が降った後は、新川河口排水機場が動いている為、流れが速く勇壮です。

越後新川まちおこしの会の活動に関わってから、新川の歴史にふれ、先人の新川開削にかける思いを感じる事が出来ました。

新田開発を行いたいという先人の思い、昔の人たちは、囲炉裏を囲みながら、豊かになる為には、食べ物を得る為にはどうしたら良いのだろうと考え、話し合ったのだろうと思います。

新川沿いを散策すると、その思いを感じる事が出来ます。

昨年10月、西区DEアート開催中に新川沿いの静田神社境内で、野点をさせていただき事が出来ました。新川に吹く風は爽やかで、のんびり川の流れを眺めながらゆったりとした時間を過ごす事が出来ました。

これからも川の流れを見つめ、先人の思いを受け止めながら新川と向き合いたいと思います。

(写真：短冊「清流 間断無し」)



新川の流れと静田神社

## 米作りを支える新川、もっと身近かな川に！

丸山 久子 (主婦)

多くの先人が長年の思いをこめて手作業で掘った川・新川。その歴史を改めてひもとくと、約200年間、ゆったりと流れながら西区と西蒲区一带の米作りと市民の安泰な生活を支えていたことに気付く。それは、当たり前であって当たり前ではないことなのではないだろうか。夏の日照りが続いても、また、大雨が降って県内の他の地域で水騒ぎをしていますが、新川はただゆったりと流れてきた。米作りと私たちの安泰な生活を支えてくれるのはこの人工の川で24時間300もの排水機が稼働しているお陰であると聞いている。それは凄いことである。

先人が残してくれたこのすばらしい遺産。私は、ただ流すだけの川でなく、新川をきれいにし、もっと身近かなものとして大いに活用したい。否、活用できる川にしたいと願っている。



新川観桜会 07年4月7日

- ・川辺で会員の皆さんと、また若者たちと集い交流し楽しみたい。
- ・川の幸を皆んなで食べたい
- ・水辺で四季おりおりの催しをしたい
- ・お茶会などでゆったりと交流会をしたい  
等々夢はいっぱいふくらむ。



平成19年度の活動から

西区DEアート(新潟大学)西尾会員の茶会(野点)  
於：静田神社 10月13日

## 編集後記

事務局長 丸山幸平

昨年二月に会が発足してもうすぐ丸一年になります。ここまで歩んでこられたのは世話人の方々のお陰です。

四月以降は毎月、西地区公民館で第三月曜日午後7時からの世話人会を開いて議論し、会の軌道修正を繰り返しながらの歩みでした。



世話人の方々に改めてお礼を申し上げます。顧みますと、4月に懇親を兼ねた観桜会、五月に新川関連の記念碑めぐり、6月は全国一斉水質調査に参加、新川と広通江川のCOD、透視度調査とクリーン作戦、7月は蓮久寺の法要参加、9月に源流探索と新新樋曾山隧道放流点の確認、10月には西区でアートと連携してトークショウや茶会、内野小学校の子どもたちに新川と水道水の透視度比較、12月には内野コミ協で新川開削の講演会。初年度としては少々盛り沢山の感もありました。

加えて、11月半ばに新潟地域振興局から立体交差の箇所に説明板を付けたい。ついてはお宅の会で内容をつめて貰えたら有難いとの嬉しい話です。年度内に完成させたいとのこと。また完成の折には一緒に竣工式をしませんか？とのことで、正月を挟んで二回、顧問の方々も交えての議論でほぼ固まりました。

楽しみにして下さい。

### 「新川こぼれ話」:

新潟地震の時、「料亭出雲」の養殖ウナギが逃亡。後日、近所の方がウナギを捕まえて「出雲」に売りにきたとのこと、

ウナギには名札がついていないだけにサテサテ。

## 「身近な水環境の全国一斉調査」

### 2007年6月新潟地区レポートの一部紹介



昨年の調査結果から新川関係の主な資料だけを要約します。県内で1級河川52,2級河川41,湖沼10,農業用水45,総計328地点、676名のボランティアの協力によるものです。

水の汚れを示す尺度にCOD(化学的酸素要求量)があります。

鮎が上る川はCOD1以下ほど、8以上はかなり酷い汚れです。

県全部ではCOD 0~3が29%,3~6が41%,6~8が20%,8以上が10%でした。

新川関係の調査結果をみると、汚濁の進んだ8以上の地点が70箇所中、20地区で。実に1/3にも達する状況です。具体的には田潟、広通江橋、広通江と新川合流点、西山川合流点、木戸水観点、木戸橋、赤塚橋、末広橋、野本揚水機場、大通川放水路ケラ島堰、西山川松山P場、旧広通江P場、横江排水路新田P場、新川右岸P場、月潟排水路、用水路、曾根排水機場等。

湖沼では佐潟橋で7.7,御手洗潟6.0,上堰潟6.7,仁箇堤8以上とかなり深刻です。

「泳いだ、食べた新川」に戻すためには上流から下流までの多くの方々の自覚と協力が不可欠です。会員各位の一層のお力添いを切望しております。

### 新川通信-1号

幾つかの行事に参加出来なかった会員の方々に一度だけでも会報をお届けしたいと、ささやかなミニコミ紙を作りました。コメントを頂いた方からだけのものです。

「新川通信」と名づけ年一回です。

皆さんで育てて頂きたいと思います

発行：越後新川まちおこしの会

住所：新潟市西区五十嵐中島1-16-16

平成20年1月23日